第２回関東ブロッククラブミーティング２０１０（第１日目）開催概要報告

日　時：　平成２２年１１月６日（土）１３：００～１７：００
会　場：　岸記念体育会館 講堂

今年度２回目の関東ブロッククラブミーティング（第１日目）は、主に創設支援クラブの関係者を対象とするプログラムに関東８都県から１１２名を集めて開催された。

本ミーティングのねらいは、ブロック内における総合型地域スポーツクラブ設立に向けた取組状況を把握するとともに、先進クラブ関係者からの情報提供をもとに、創設支援クラブや先進クラブ関係者が抱える諸課題を明らかにし、問題解決の糸口を探るための情報の共有化ならびにクラブ創設支援のためのネットワークづくりを図ることであった。具体的には、参加者が日ごろのクラブづくりにおいて直面している課題や疑問を解決するため、先進的な取組みを行っているクラブが開設するブースを自由にめぐり、予め設定された課題テーマについての取組みを中心として当事者の説明・報告を聞くとともに、意見交換を通じて今後のクラブづくりに役立ててもらうことであった。報告を依頼したクラブは、関東 8 都県から各 1 クラブずつ、計 8 つのクラブであった。いずれもすでに設立されており、積極的なクラブ運営を行っているクラブばかりである。プログラムは、前半（Part1）、後半（Part2）の二部構成で、各パートごとに 4 つのクラブがブースを構え同時に報告を行った。フロアはさながら「スポーツクラブ屋台村」の様相を呈し、それぞれのブースにおいて活発な情報交換・意見交換が行われた。下表は、課題別テーマブースの一覧である（表 1）。

表１．　課題別テーマブース一覧

Part1/ Part2	課題テーマ	都県名	クラブ名	発表者名
Part1	クラブづくり“はじめの一歩”	栃木県	夢くらぶ国分寺	下山　欽也　氏
	行政を含む他団体との連携体制づくり	神奈川県	NPO法人高津総合型スポーツクラブSELF	菊地　正　氏
	スポーツ活動の場の確保	千葉県	総合型スポーツクラブ四街道ＳＳＣ	秋山　剛之　氏
	課題解決への会議の進め方	山梨県	かじまるスポーツクラブ	保坂　重機　氏
Part2	プレイベントの進め方	東京都	こやのエンジョイクラブ	鈴木　奈保美　氏
	効果的な資金管理（会費設定・お金の使い方）	埼玉県	NPO法人あさひ・スポーツ文化クラブ	河井　宏暢　氏
	効果的な広報活動	茨城県	スポーツクラブさしま	諏訪　賢一　氏
	指導者・運営スタッフの確保	群馬県	高崎スポーツクラブ	梅山　友久　氏

本ミーティングでは、昨年度に引き続きブース形式を採用しているが、今年度も各ブースを課題テーマ別に分けたことから、参加者にとっては計画的かつニーズに応じたブースめぐりが可能になり、限られた時間を有効に活用することができたのではないかと思われる。以下、ブースでの報告内容の一部を紹介する。

「クラブづくり“はじめの一歩”」（夢くらぶ国分寺／栃木県）のブースでは、20 回を越える設立準備委員会等において検討されてきた「理念づくり」「担い手確保」「地域の理解」などのプロセスについて報告があった。ここでは初期段階での慎重な討議の重要性をあらためて認識させられた。「行政を含む他団体との連携体制づくり」（NPO 法人高津総合型スポーツクラブ SELF／神奈川県）のブースでは、行政はもちろんのこと、多様な地域団体（とりわけ学校）との良好な連携・協力関係の構築が、クラブとしての活動の幅を大きく広げることにつながっている現状が報告された。「スポーツ活動の場の確保」（総合型スポーツクラブ四街道 SSC／千葉県）のブースでは、公共スポーツ施設の休館日をクラブが優先利用している事例が報告された。ユニークなアイデアともに「場の問題は（場の確保に関わる）人の問題」という報告者の言葉が印象的であった。「課題解決への会議の進め方」（かじまるスポーツクラブ／山梨県）のブースでは、クラブとしてのよりよい意思決定のあり方について報告があった。準備委員会の段階から総務、企画、広報という部会を設定し、それぞれに具体的な任務を与えたうえで決定事項を全体会にあげていくという進め方の有効性について報告がなされた。

「プレイベントの進め方」（こやのエンジョイクラブ／東京都）のブースでは、「お試しキャンペーン教室」の開催を例に、それらが事業運営の「予行」としての役割だけでなく、事業の多様性やお得感を多くの地域住民にアピールする絶好の機会にもなりうることが報告された。「効果的な資金管理」（NPO 法人あさひ・スポーツ文化クラブ／埼玉県）のブースでは、クラブ財務上、会費と参加費を区別することの意味、価格設定に関わる基本的な立場としての「原価志向」、そして計画的資金管理の重要性について報告があった。「効果的な広報活動」（スポーツクラブさしま／茨城県）のブースでは、クラブが実際に行っている多様な広報・情報提供の例を挙げ、情報社会において多様なメディアを利用・駆使して広報活動を行うこと、ひいてはクラブとしての総合的な情報管理の意義について報告があった。「指導者・運営スタッフの確保」（高崎スポーツクラ

ブ／群馬県）のブースでは、乗馬やゴルフといったユニークな種目を抱えるクラブの実例にもとづき、望ましい人的資源の条件について報告がなされた。指導の卓越性のみならず、まちづくりへの情熱や安全性への配慮も大切な資質になるという指摘は示唆的であった。

各ブースにおける質疑応答の詳細についてはふれないが、いずれのブースも非常に活発かつ熱い議論が展開されていた。課題テーマ別のブースということで、目的意識の高い人たちが集まったからということもあろうが、特定の課題について情報収集したり議論できる場というのは実際にはそれほど多くない。おそらく参加者にとっての学習効果はかなり大きかったのではないかと思う。このように、本ミーティングは当初のねらい通り、参加者にとって今後のクラブづくりに向けた有益な知識・情報を入手する機会とともに、都県内外におけるネットワークを構築するあるいは強化するきっかけを提供できたのではないかと考える。ただし、実際のクラブづくりに反映させるためには、行動に移すことが必要である。ブースめぐりのあとのまとめでは、刺激やアイデアを実際の行動に移すことの大切さについて強調した。

以上のブースめぐりののち、事務局より総合型クラブ創設支援事業の事務処理に関わる説明があり、本事業の円滑な実施に向けて各クラブの担当者が行うべき事務処理上の留意点等について確認した。

最後になるが、今回のプログラムが首尾よく実施できたのは、まずはご多用の折から時間を割いて創設支援クラブのために駆けつけてくださった先進８クラブの先輩諸氏のおかげである。この場をお借りしてご協力に深く感謝申し上げたい。

（作野誠一：関東ブロック地方企画班長／早稲田大学）

第２回関東ブロッククラブミーティング２０１０（第２日目）開催概要報告

日　時：　平成２２年１１月7日（土）１３：００～１７：００
会　場：　岸記念体育会館 講堂

第２日目は、主に自立支援クラブと都県総合型クラブ連絡協議会加入クラブの関係者を対象とし、総勢９０名の参加があり、文部科学省からの「スポーツ立国戦略」等についての説明、宮嶋泰子氏による講演に加え、パネルディスカションが行われた。

１【説明】「スポーツ立国戦略」における総合型クラブに対する期待について

猪股康博氏（文部科学省スポーツ・青少年局生涯スポーツ課スポーツ指導専門官）が、これまでの１０年間における取組みを踏まえた上で、今後も、総合型地域スポーツクラブの育成を引き続き推進していく方針であると語る。

各総合型クラブに協力いただいて実施した「平成２２年度総合型クラブ育成状況調査」では、本年７月現在、全国で育成されている３,１１４のクラブ（創設準備中クラブを含む）の現状として、市区町村単位でのクラブ設置率は７１％であり、残る約３０％が未設置の状況となっている。そのような中で、いわゆる法人格を取得しているクラブは３３３あり、うち１１５クラブにおいて指定管理業務を受託している。

また、総合型クラブに関する今後の課題等について、平成２１年度に実施した「総合型クラブ活動状況調査」の結果をもとに説明がなされた。

調査に回答したクラブは、その時点においてすでに創設済みの全国２,３９２のクラブであり、各クラブの事業予算額を単純に合計すると約１２２億円となる。つまり１クラブあたり＊約５２３万円の費用が使われていることとなる。同様に会員数の合計は約１４５万人、平均すると１クラブあたり＊６１１人の会員数で、対前年比でみた場合、会員数は増加の傾向にある。

＊平均値は、調査には回答しているが、予算額や会員数の未回答等を抜いて算出

その他、各々のクラブにおける今後の主な課題とその割合としては、会員の確保６６．３％、指導者の確保５４．３％、財源の確保５２％、クラブハウスの確保２３．７％などであった。

また、「内閣府の世論調査」において、地域におけるスポーツ振興の効果については、高齢者の生きがいづくりが４２．２％の他、地域コミュニティの活性化等が挙げられている。加えて、「総

合型クラブの設立効果に関する調査研究」における調査では、地元地域に愛着を感じている方はクラブ会員では７９．０%、非会員では５１．３%であった。

この１０年間のクラブ育成に係る各種の取組みを通して、地域が変化し、スポーツ参加の機会が増え、世代間の交流がより促進されるなど、大きな成果が表れている。一例として、１０年前の体力調査における成人のスポーツ実施率で比較してみると、当時３７%であったものが４５．３%と確実に上昇している。

「スポーツ立国戦略」では、新たなスポーツ文化を確立するとして、

１．　ライフステージに応じたスポーツ機会の創造
２．　世界で競い合うトップアスリートの育成・強化
３．　スポーツ界の連携・協働による「好循環」の創出
４．　スポーツ界における透明性や公平・公正性の向上
５．　社会全体でスポーツを支える基盤の整備

等の重点戦略が掲げられ、トップスポーツと地域スポーツにおける人材の好循環や、教育分野での青少年の健全育成、福祉分野での高齢者の生きがいづくり、まちづくりの分野では地域に対する帰属意識など、総合型地域スポーツクラブの果たす役割に期待し、クラブの活動を「新しい公共」を促進するものと位置づけている。

２【講演】

（株）テレビ朝日アナウンス部の宮嶋泰子氏による講演が行われた。

この日の宮嶋泰子氏は、清楚に和装で登壇し「母の大切にしていた着物に袖を通してみると、そこで新たに感じるものがありました」と、古い物を大切にする心を冒頭に伝え、日本のスポーツにおける１００年（日本体育協会・日本オリンピック委員会創立１００周年＝２０１１年）の歴史について語られた。

総合型地域スポーツクラブとして、今後、スポーツとどの様に携わって行くのか、「これからのスポーツが果たす役割、あらたなスポーツの価値とは～、クラブが地域で生活の質の向上に役立つためには～」というテーマで海外での取組み事例も含め講演された。

日本のスポーツにおける１００年の歴史を振り返ると、スポーツの本質は「遊ぶ」事であり、そこにルールが加わり発展進化し成長してきた。そして「楽しい」に結びつく時、スポーツは継続されていく。また、あらたなスポーツの価値観とは、人と人とのつながりにより発見される。スポーツに携わることが健康維持へとつながり、地域に愛着を感じ世代間の交流がより促進されることにつながる。その架け橋となるのが総合型地域スポーツクラブであるという。

あらたなスポーツの価値をつくる場として、総合型地域スポーツクラブの存在が益々大きなものとなるだろう。

３【パネルディスカッション】

テーマ：「総合型地域スポーツクラブに対する期待と現実の差を埋める為には」をテーマに、コーディネーターに伊倉晶子氏、パネリストには、（株）テレビ朝日アナウンス部の宮嶋泰子氏、ＮＰＯ法人総合型スポーツクラブピポットフット理事長の桑田健秀氏、ＮＰＯ法人高津総合スポーツクラブ SELF クラブマネジャーの菊地正氏を迎え進行した。

各パネリストの意見

宮嶋泰子氏：総合型地域スポーツクラブの活動の１つのポイントは学校にある。学校と地域は密接な関係にあるので、協力連携し活動をしてほしい。総合型地域スポーツクラブは、スポーツに携わる人々の生活の質を高め、日常生活を豊かにする効果がある。

桑田健秀氏：当クラブではプロによる専門性の高い指導を提供している。現在、小学校と連携をはかり学校施設を借り部活動を行っているが、連携の幅が広がることで、社会貢献の幅も広げることができ、クラブは新しいインフラになり得る。

菊地正氏：スポーツ施設の指定管理業務を受諾している。部活動に入っている子ども達がクラブでもスポーツを楽しんでいるが、当クラブでは「楽しむスポーツ」を重視している。大学とも様々な連携をとっている。

４【まとめ】

文部科学省・猪股康博氏の説明、宮嶋泰子氏の講演、そして、パネルディスカッションを通して紹介のあった国の方針や意見、助言、事例紹介は、とても貴重で参考となる内容であった。

これらを踏まえ、今後運営に携わるスタッフや指導者は、スポーツの本質や意義の共通理解を図った上で運営、指導を行うことが重要である。また、クラブには行政や関係団体から大きな期待が寄せられている。その期待に応えるためには、クラブの理念や目的を常に明確にするとともに、地域の実情・問題点を把握し、クラブの活動による成果と課題を検証し続けることが必要になるだろう。

（小野里順子：関東ブロック地方企画班員／うすねニュースポーツクラブ）